



# コリホル

だい27しょう



コリホルという人が、ゼラヘムラにやって来ました。コリホルは、イエス・キリストをしんじず、よげんしゃがすくいぬしについて話すことは、うそだと教えました。(アルマ30：6、12-14)



コリホルは、イエスがこの地上に来て、自分たちのつみのためにくるしまれるなどとしんじるのは、ばかげていると言いました。(アルマ30：16)



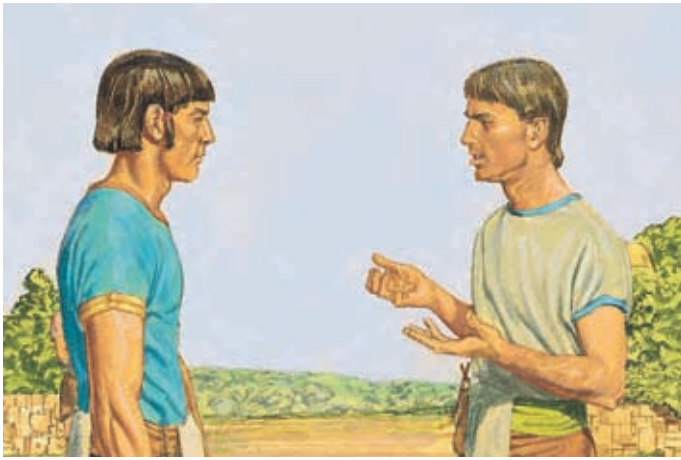
コリホルは言いました。「人はしんだらそれでおわりだ。だから、つみをおかしても、ばっせられることはない。」たくさんの人がコリホルの話をしんじ、わるい行いをするようになりました。(アルマ30：17-18)



コリホルは、アンモンのためにも同じことを教えました。しかし、アンモンのためは聞こうとはしません。コリホルをしばって、アンモンのところへつれて行きました。アンモンは、コリホルをジェルシンの地からおい出しました。(アルマ30：19-21)



コリホルは、ギデオンの地へ行きましたが、そこの人びとも、コリホルの教えには耳をかきませんでした。大さばきつかさは、コリホルをアルマに引きわたしました。(アルマ30：21、29)



アルマがコリホルに、「神を<sup>かみ</sup>しんじるか」と聞くと、コリホルはしんじないと<sup>こた</sup>答えました。そこでアルマはあかししました。「わたしは<sup>かみ</sup>神がいらっしゃることも、キリストがおいでになることも<sup>し</sup>知っている。」(アルマ30：37-39)



するとコリホルは<sup>い</sup>言いました。「それなら<sup>かみ</sup>神がいるでしょうここに、<sup>おこな</sup>きせきを行え。<sup>かみ</sup>神に<sup>ちから</sup>力があるし<sup>み</sup>るしを見たなら、しんじよう。」(アルマ30：43)



アルマは<sup>い</sup>言いました。「あなたはすでに<sup>かず</sup>数か<sup>み</sup>ずの<sup>み</sup>しるしを見ているではないか。せいぶんも、すべての<sup>かみ</sup>よげんしゃのあかしもある。」(アルマ30：44)



「<sup>だいち</sup>大地も、その<sup>うへ</sup>上にあるすべてのものも、<sup>だいち</sup>大地のうんどうも、<sup>かみ</sup>みな神がいらっしゃるしるしではないか。」(アルマ30：44)



それでもコリホルは、<sup>かみ</sup>神をしんじようと<sup>おも</sup>しません。アルマは、コリホルが<sup>かみ</sup>かたくななのを<sup>おも</sup>かなしく思い、<sup>おも</sup>みもれいもほろびることになるぞと<sup>かみ</sup>けいこくしました。(アルマ30：45-46)



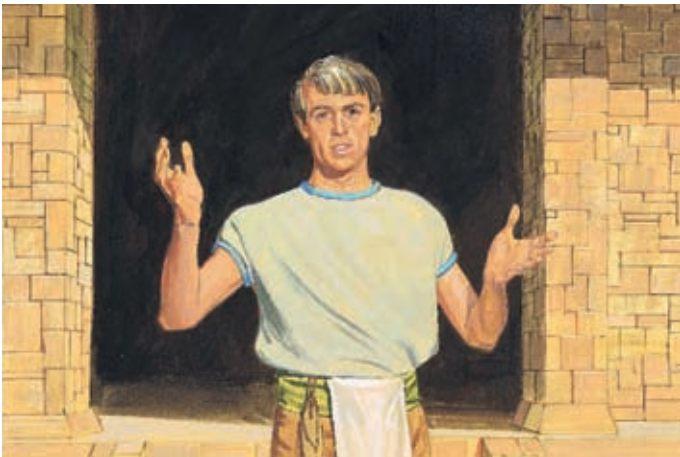
それでもまだコリホルは、<sup>かみ</sup>神がいるしるしを<sup>い</sup>見せろと言いはりました。そこでアルマは<sup>い</sup>言いました。「あなたは<sup>かみ</sup>ものが<sup>い</sup>言えなくなる。それが<sup>かみ</sup>神のしるしだ。」(アルマ30：48-49)



アルマがこのように言うと、コリホルは口がきけなくなっていました。(アルマ30：50)



コリホルは、文字に書いて言いました。「このしるしを下されたのは神だ。本当は前から神がおられることは知っていた。」そして、のろいがとりさられるようにいのってほしいと、アルマにたのみました。(アルマ30：52, 54)



しかし、アルマは、コリホルがまた、人びとをまどわすことが分かっていたので、「もういちど話せるようになるかどうかは主がおきめになることだ」と言いました。(アルマ30：55)



主は、コリホルが口がきけるようにはされませんでした。コリホルは、しかたなく、家から家へと、食べものももらって歩くようになりました。(アルマ30：56)



大さばきつかさは、ぜんこくにふれを出して、コリホルのみにおこったことを知らせました。そして、コリホルをしんじたものに、くいあらためるように言いました。人びとはくいあらためました。(アルマ30：57-58)



コリホルは、ゾーラム人のところへ行き、そこでものごいをしている時に、つきたおされて、ふみつけられてしんでしまいました。(アルマ30：59)